

岡山県立

博物館だより

81号



〈企画展「手しごと博覧会2016」より〉
麦稈真田(岡山県立博物館蔵)

- 特別展を終えて ……②③
- 交流展を終えて ……④
- 企画展を終えて ……⑤
- 教育普及事業 ……⑥⑦
- 博物館 NEWS ……⑧
- INFORMATION ……⑧



〈特別展「新見荘-中世荘園の記憶-」より〉
国宝 東寺百合文書 桐箱(二函)(京都府立総合資料館蔵)



〈特別展「カミとほとけの姿-岡山の信仰文化とその背景-」より〉
如来立像(倉敷市・安養寺蔵)



〈交流展「とっとり弥生の王国-青谷上寺地遺跡と妻木晩田遺跡-」より〉
青谷上寺地遺跡出土品(鳥取県教育委員会蔵)

特別展「カミとほとけの姿 —岡山の信仰文化とその背景—」

会期：平成28年9月9日(金)～10月16日(日)



広報ポスター

古来、日本人が信仰してきた「カミ」は、姿を見せないもの、または姿をもたないものとされてきました。6世紀中ごろ、仏教の教えとともに、仏像が日本へ伝わります。信仰の対象である「ほとけ」の姿をあらわした仏像の存在を知った人々は、これまで信仰されてきた「カミ」に対して、具体的な姿を求めるよう

になり、神像を制作します。

このたびの展覧会では、神像と仏像をはじめとした彫刻を中心に、岡山県を代表する宗教美術を最新の調査成果とともに紹介しました。

展示の内容

展示は、4章立てで構成しました。概要はつぎのとおりです。

第1章 仏の造形

仏像は役割に基づき、如来、菩薩、天部、明王の4つに分類されます。岡山県に伝わる仏像を通じて、さまざまな「ほとけ」の姿を紹介しました。

第2章 〈神〉像の出現

外来の「カミ」である「ほとけ」を仏像として表現することが普及すると、人々は、仏教が伝わる前から信仰してきた「カミ」に対しても具体的な姿を求め、〈神〉像を制作します。神像を中心に、彫刻や絵画で表現された「カミ」の姿を紹介しました。



展示会場

第3章 釈迦と浄土へのあこがれ

釈迦の姿と生涯は、経典に基づきながら、彫刻や絵画として表現され、人々に伝えられます。浄土とは、仏の住む清らかな土地であり、仏国土とも呼ばれます。仏の数だけ浄土はありますが、日本では、阿弥陀如来が住む西方極楽浄土へのあこがれが強くなりました。

当時の人々があこがれた、釈迦と阿弥陀如来の姿をご紹介します。

第4章 密教の仏

9世紀のはじめごろ、呪術的な儀式を取り入れて体系化された密教が、最澄(伝教大師)や空海(弘法大師)により中国から伝わります。不動明王をはじめとした密教の仏の姿とおして、神秘的とも言われる密教美術の世界をご紹介します。

関連行事



特別講座「カミとほとけの姿」

特別講座「カミとほとけの姿」を開催し、好評を得ました。

会期中には、宗教美術の研究者である就実大学教授土井通弘氏、笠岡市立竹喬美術館長上藪四郎氏、名古屋市立大学教授吉田一彦氏を招き、

展覧会を終えて

岡山県を代表する仏像とともに、神像を23躯展示しました。これだけの数の神像がまとまって展示されるのは、県内では初めてのことです。県外の研究者からも注目を集め、全国各地からご来館いただきました。来館者数は、6,214人でした。(学芸員 重根弘和)



展示解説

特別展「新見荘～中世荘園の記憶～」

会期：平成28年10月21日(金)～11月20日(日)



広報ポスター

国宝東寺百合文書は、京都の東寺に伝えられた約2万5千通に及ぶ膨大な量の古文書群で、平成27年10月にユネスコの世界記憶遺産（現在の呼称は「世界の記憶」）に登録されました。

本展覧会はこれを記念して開催したもので、同文書に含まれる新見荘（岡山県新見市にあった荘園）の史料を展示して中世荘園と社会の様子を紹介しました。また、併せて貴重な荘園図や発掘調査の成果から、岡山県内にあった主な荘園についても紹介しました。

展覧会の構成

第1章「新見荘と中世荘園の人々」では、東寺百合文書をもとに、中世荘園の成立から衰退までを概観し、下地中分や土一揆など、中世社会の特色を取り上げて紹介しました。また、当時の生活や社会の様子がイメージできるように、重要文化財広島県草戸千軒町遺跡出土品のうち、椀や鍋などの生活用品や農工具、銭塊（複製）などを展示しました。

第2章「祐清殺害事件とたまかき書状」では、中世の一般女性の筆跡として知られる「たまかき書状」と、それに関わる祐清殺害事件に特化して詳しく紹介しました。

祐清は、東寺から新見荘へ派遣された代官です。彼はなぜ殺害されたのか、殺害された場所はどこのか。これらの点には諸説あり、未だに謎が残されています。展示では、東寺に残された複数の報告書や現場検証図を取り上げ、現代語訳とともに紹介しました。展示ケース前の床には、航空写真に事件の関係地を表示した大型の地図を設置し、来館者に上を歩いて距離や方角を確かめながら、今から約

550年前の事件の検証をしてもらいました。

たまかき書状の文中には、何度も「ゆうせい」と記され、殺された祐清と「なしみ」の仲であったたまかきの思いが伺えました。

第3章「荘園発掘と荘園図」では、藤原摂関家の荘園であった鹿田荘、貴重な荘園図がのこる足守荘などを取り上げました。中世の墓から見つかった烏帽子や、荘園の境界を示した重要文化財「寺領絵図足守庄図」などは、特に注目を集めました。

関連行事



小森浩一氏記念講演会

記念講演会として、京都府立総合資料館（現・府立京都学・歴史館）歴史資料課資料主任小森浩一氏から東寺百合文書についてのお話を、早稲田大学大学院教授海老澤 哀氏からは、新見荘についてお話をいただきました。また、本展覧会の準備段階から指導助言をいただいた岡山朝日高校教諭で文学博士の辰田芳雄氏には、特別解説をお願いしました。数十年にわたって新見荘を研究されている辰田氏の解説は大変興味深く、多くの方が新見荘研究の最先端のお話を堪能しました。さらに、新たな試みとして、



海老澤 哀氏記念講演会

高校生を対象に実際の歴史資料を用いて授業を行う「県博ゼミナール」を実施しました。参加者はわずかでしたが、地元の歴史に関わる資料を用いることで、日本史を身近な学問と感じ、興味が高まっていたように思いました。

展覧会を終えて

現在、東寺百合文書はWEB上で公開されており、同文書をもとにした研究が広く進められています。とりわけ新見荘の研究は、日本の中世及び中世荘園の研究に貴重な成果をもたらしています。

期間中4,590人にご来館いただきました。本展覧会が、あらためて記録の大切さを理解し、歴史資料に興味を持つ機会となれば幸いです。（学芸課長 竹原伸之）

交流展「とっとり弥生の王国－青谷上寺地遺跡と妻木晩田遺跡－」

会期：平成29年1月19日(木)～2月26日(日)

鳥取県との文化交流事業 第2弾！

平成27年度からはじまった岡山県と鳥取県のカ文化交流事業では、両県立博物館の連携による展覧会の開催を通して、歴史遺産を活用した相互交流を進めています。

2年目となる本展では、近年、全国的に注目を集めている二つの遺跡の発掘成果を通して、鳥取県の弥生文化を取り上げました。

まず、青谷上寺地遺跡(国史跡、鳥取市)は、当時の暮らしを物語る農耕具や漁労具、弥生人の技術水準の高さを示す精巧な木製容器、日本列島内外との交流を物語る金属器など、多種多彩な出土品から「地下の弥生博物館」といわれ、交易拠点としての港湾集落と評価されています。さらに、殺傷痕のある弥生人骨の大量出土や、国内初となる弥生人の脳が発見など、従来の弥生時代像を大きく塗り替える成果が挙げられています。

次に、妻木晩田遺跡(国史跡、西伯郡大山町・米子市)は、国内最大級(約170万㎡)の弥生集落です。竪穴住居や掘立柱建物跡が約960棟、山陰地域独特の四隅突出型墳丘墓などが34基発見されており、『魏志倭人伝』の「倭人は帯方東南大海の中にあり。山島に依りて国邑をなす」という記述を具体的に物語る遺跡として注目を集めています。現在、調査成果をもとに「鳥取県立むきばんだ史跡公園」が整備され、当時の景観や暮らしを体感できる弥生のフィールドミュージアムとして活用されています。

本展では、「ムラと住まい」・「なりわいと道具」・「弥生の技と美」・「交流と交易」・「弥生のまつり」・「倭国大乱」・「王の誕生」をキーワードに、この二つの遺跡の出土品を一堂に展示しました。



広報ポスター

新発見！サメ線刻銅剣を鳥取県外初公開！

さらに、本展への特別出品として、サメを描いた銅剣を鳥取県外で初めて公開しました。これは弥生時代のまつりの道具である銅剣に、線刻でサメの姿を描いたもので、平成28年に新発見されました。

弥生時代のサメ絵画の分布は、鳥取県を中心とする日本海沿岸に

限られ、青谷上寺地遺跡でもサメを線刻した土器や木器が発見されています。鳥取県の弥生文化には、サメをシンボルとする信仰や思想があったとみられ、日本神話の「因幡の白兔」と何か関係があるのか、来館者の注目を集めていました。



サメを線刻した銅剣
(上:全体、下:サメ絵画)
出土地不明 鳥取県内伝来
鳥取県立博物館蔵
撮影:奈良文化財研究所

多彩な関連行事

会期中には、展覧会の内容と連動した関連行事を実施しました。「記念講演会」では、鳥取県埋蔵文化財センター所長中原齊氏に、鳥取県の弥生時代の調査研究について最新の成果を御講演いただきました。むきばんだ出前講座「むきばんだに恋して15年－弥生のフィールドミュージアム妻木晩田遺跡－」では、妻木晩田遺跡の発見・発掘から史跡整備にいたる取り組みを担当者から御紹介いただきました。「やってみよう!弥生人のカゴづくり」では、青谷上寺地遺跡から出土したカゴをモデルに、カラフルな紙バンドを素材にして弥生時代の技法でカゴをつくりました。予想以上の難しさと出来上がりの可愛らしさに参加者も満足気でした。「ボランティアガイド」では、



展示会場の様子

友の会ボランティア21名が会場でガイドし、展示内容がよくわかったと来館者からの評判も上々でした。「学芸員による展示解説」は、いずれの回も参加者が多く、関心の高さがうかがえました。

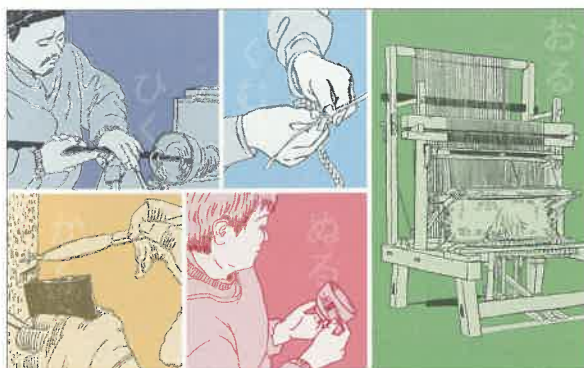
展覧会を終えて

本展は、鳥取県の全面的な御協力によって、展示総数約380点という、かつてない規模・内容となりました。会期中6,763名の来館者をお迎えすることができました。鳥取県の特徴ある弥生文化を紹介した本展を通して、歴史や文化への興味関心、埋蔵文化財保護への理解を深めていただくと共に、原始古代の造形の素晴らしさを感じ取っていただけたなら幸いです。今後も、このような魅力的な展覧会を企画・開催してまいりますので御期待ください。

(学芸員 佐藤寛介)

企画展「手しごとと博覧会2016」

期間：平成28年7月14日(木)～9月4日(日)



岡山県には、魅力的な「手しごと」を続けている人がいます。

平成28年度 企画展

手しごとと博覧会

2016年7月14日(木) → 9月4日(日) 岡山県立博物館 Okayama Prefectural Museum

開館時間 午前9時～午後6時 休館日 毎週月曜日(祝祭日を除く) 観覧料 大人250円、65歳以上120円、高校生以下無料

関連行事

- 金箔を使って自分だけの郷原漆器を作ろう
- マイコースターを作ろう
- 真田紐でオリジナルプレスレットを作ろう
- 紙テープや画用紙を使って真田を組んでみよう
- ミニ織機で体験してみよう

岡山県立博物館 企画展「手しごとと博覧会2016」

広報ポスター



「金箔を使って自分だけの郷原漆器を作ろう」ワークショップの様子



「紙テープや画用紙を使って真田を組んでみよう」ワークショップの様子

人々は、身近な材料や道具を使った「手しごと」により、様々なものを生み出し、生活を便利に、そしてより豊かにしてきました。

岡山県には、魅力的な「手しごと」を続ける人々があります。この度の展覧会では、「くむ」・「おる」・「ひく」・「かく」・「ぬる」という5つの視点から、浅口市の麦稈真田とよばれる麦わら細工、早島町や倉敷市のいぐさ製品、新見市の備中漆、真庭市の郷原漆器など、製作方法とともに紹介しました。

関連行事

展覧会期間中には、現在でも続けられている手しごとの魅力を紹介するため、5つの視点それぞれのワークショップを行いました。「金箔を使って自分だけの郷原漆器を作ろう」、「マイコースターを作ろう」、「真田紐でオリジナルプレスレットを作ろう」は事前に募集をし、ご参加いただきました。「紙テープや画用紙を使って真田を組んでみよう」、「ミニ織機で体験してみよう」というワークショップでは、来館者の皆さんに当日自由にご参加いただきました。いずれも、子ども達から大人の方まで、多数参加していただきました。(総参加者164人)

展覧会を終えて

この度は、岡山県内で行われていたまたは、現在でも行われている手しごとを、5つの視点から紹介しました。それぞれの手しごとは、身近な自然環境から生まれました。しかし、戦争やその後の新しい産業の発達によって、衰退した手しごとや復興した手しごとがあります。

そして、それらの手しごとを様々な形で、次の世代に残すために取り組んでいる方々がいらっしゃいます。そのような方々を広く知っていただくと同時に、県内に残るその他の手しごとを再度見直し、皆様にもご紹介できる機会を持ちたいと考えています。(来館者数6,015人)

(学芸員 野田繭子)

教育普及事業の概要

平成28年度も児童・生徒・一般の方々を対象にさまざまな教育普及事業を実施しました。

■館内授業・出前授業



館内授業

本館で実物資料に触れ、展示の見学を行う「館内授業」、学芸員が実物資料を持参し、小中学校で実施する「出前授業」は大変好評で、今年度も多くの学校に利用いただきました。展覧会にあわせての見学や、テーマに基づいた授業を中心に博物館のバックヤードの見学も好評です。

お気に入りの文化財を一点探ることができるように、10～15分の時間を設けて、子どもたちが館内を自分自身の



出前授業

興味に基づいて見て回れるような工夫もしました。考古や民俗の分野等の出前授業も多数実施し、年間83校の利用がありました。

■学芸員による展示解説

毎週土曜日の午後2時から、学芸員が展示内容の解説を行っています。展覧会の内容を詳しく、展示資料を分かりやすく説明しています。今年度も毎回多くのお客様にお越しいただきました。



特別展「新見荘」展示解説



特別陳列「東京国立博物館から里帰り！古代吉備の名宝」展示解説

■中学生職場体験

今年度もチャレンジワークとして岡山市内の中学校2年生（11校20名）が博物館業務を体験しました。文化財を守り、来館者へわかりやすく見てもらうように展示する仕事が、自分たちが考えていたよりも大変だったようです。



受付業務体験



資料取り扱い

■博物館実習

学芸員資格の取得をめざす県内外の大学生14名が、当館での博物館実習に参加しました。8月中の5日間の日程で、文化財の取扱いなどの実技や博物館行事の支援などに取り組みました。



■吉備の国ジュニア歴史スクール

「吉備の国ジュニア歴史スクール」も年8年目を迎え、今年度は「岡山の巨大古墳校体験コース」を実施しました。参加校は、浅口市立金光小学校（6年63名）、金光竹小学校（6年13名）、金光吉備小学校（6年45名）でした。

第1日目は、造山古墳とこうもり塚古墳を見学しました。

第2日目は、博物館で実物資料に触れながら授業を受け、あわせて展示室も見学しました。



第1日 造山古墳・こうもり塚古墳見学



第2日 実物資料に触れあう館内授業

この2日間の成果をもとに、各学校で新聞作りや学習発表会を通して学習のまとめを行いました。今年度の事業の様子は、報告集にまとめて県内すべての小学校へ配布しています。



学習発表

■博物館講座

県民を対象にした「岡山の歴史と文化」をテーマに行う講座でスタンダード・スペシャルの2コースを開講しています。

前者は、学芸員が平素の研究成果を博物館資料に基づいてお話しするもので、全4講座（6月火曜・木曜開講）を81名が受講しました。後者は、各研究分野の第一人者である講師による専門的な講座で、全4講座（7月～10月）を59名が受講しました。



スタンダードコース



スペシャルコース

■ジュニア学芸員講座

「ジュニア学芸員講座」は、中学生・高校生が「ジュニア学芸員」として博物館の仕事を実際に体験し、本物の文化財を通して岡山県の歴史と文化を学ぶものです。

今回は20名が参加し、8月2日(火)～4日(木)の計3日間にわたり、様々な分野の文化財の取扱や、史跡見学、発掘調査、博物館行事などを体験しました。



資料の扱い方

参加した生徒たちは全員熱心に取り組んでく

れ、多くのことを学んだようです。今回の講座が、将来の学芸員や博物館ファンを育む機会になることを期待しています。また、講座の様子をまとめた報告集も作成しましたので、ぜひ御覧ください。



現地調査



資料復元体験

寄贈資料紹介

今年度、次の資料を当館にご寄贈いただきました。寄贈者の趣旨に沿う形で、長く保存と活用を図って参ります。

- ・むしろ機 1点
- ・刀 濃州関住兼重作・拵付 1口
- ・太刀 銘 助真 1口
- ・電気式小型アイロン 1点
- ・DVD (近代の岡山県内の映像記録) 1件6点
- ・邑久郡鶴海村文書 670点
- ・邑久郡鶴海村絵図 2舗
- ・雀部家文書 116点
- ・西毅一書幅 1幅
- ・阪谷朗盧書幅 1幅
- ・岡直盧書幅 3幅
- ・張仲景像難波抱節賛 1幅

(学芸課長 竹原伸之)



むしろ機



古文書

INFORMATION

●●●●● 平成29年度の展覧会予定 ●●●●●

特別展 「備前刀ー日本刀の王者ー」
会期 平成29年9月8日(金)～10月15日(日)

企画展 「江戸時代の岡山の学び～教育県の源流～」
会期 平成29年5月25日(木)～7月2日(日)

特別展 「むしあげ 岡山に花開いた京の焼物」
会期 平成30年1月19日(金)～3月11日(日)

交流展 岡山・鳥取文化交流事業
「つながる縁・つづく縁～岡山県と鳥取県～」
会期 平成29年10月20日(木)～11月26日(日)



国宝「太刀 銘 吉房」
小松コレクション
(ふくやま美術館寄託)



虫明焼 曳舟水指
江戸時代(個人蔵)



岡山藩学校扁額本紙
(岡山県指定重要文化財・林原美術館蔵)



銅造十一面観音菩薩立像
(国指定重要文化財・鳥取県大山寺蔵)

岡山県立博物館だより 第81号
発行日/平成29年3月1日
発行者/岡山県立博物館 館長 谷名 隆治

〒703-8257 岡山市北区後楽園 1-5
TEL:086-272-1149 FAX:086-272-1150
URL <http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kenhaku/hakubu.htm>

この用紙は古紙・再生紙を
含んでいます。